

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ファイナンシャル・プランニングⅣ Financial Planning IV		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	()	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
法学、民法Ⅰ、Ⅱ、不動産関係法、税法Ⅰ、Ⅱ、金融と証券、社会保障Ⅰ、Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
法学、民法Ⅰ、Ⅱ、不動産関係法、税法Ⅰ、Ⅱ、金融と証券、社会保障Ⅰ、Ⅱ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
水谷 恒夫	非常勤講師室	出講日		授業中に指示します
授業の概要				
ファイナンシャル・プランニングⅢまでに学んだ知識を基とし、個人の家庭のライフプランをベースに、貯蓄や投資、保険、年金、不動産、税金、相続などを包括的にアドバイスする専門家＝ファイナンシャルプランナーの育成を目指す。専門家として必須の資格であるFP技能士2級検定試験の合格を目指す。				
授業の目標				
【1】①ライフプランニングと資金計画 ②リスク管理と保険 ③金融資産運用設計 ④タックスプランニング ⑤不動産運用設計 ⑥相続・事業承継設計の6分野について具体的な事例に基づいた説明、アドバイスができるようにする。【2】国家資格であるFP技能士2級検定試験の学科試験と実技試験の両方に合格できるようにする。【3】2級技能士試験検定試験は2020年1月試験での学科試験、実技試験の両方に合格できるようにする。				
授業の方法				
【1】講義および発表形式によって、問題演習を多く取り入れ、FP2級技能士試験に合格できるよう授業を進める。また、過去問題集を使用し、実際の問題演習もカリキュラムに取り入れる。【2】15回の授業スケジュールは下記のとおりであるが、進行が早く進んだ場合は残りの授業を問題演習を中心とした授業に切り替える場合もある。				
学習の成果（学習成果）				
【1】試験の合格によって国家資格を取得し、就職、面接にアピールできる。【2】幅広いFPの知識を修得することによって、アドバイザーとしてのスキルを修得し、実務に役立てることができる。【3】身近な家計を考える際にも、FPの知識をベースに生活設計を行うことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	タックスプランニング（1）：ファイナンシャルプランニングと関連法規・社会保険/問題演習			
第2回目	タックスプランニング（2）：公的年金・企業年金/問題演習			
第3回目	タックスプランニング（3）：ライフプラン策定上の資金計画/問題演習			
第4回目	タックスプランニング（4）：保険制度全般・生命保険/問題演習			
第5回目	不動産（1）：損害保険・小テスト実施			
第6回目	不動産（2）：預貯金・投資信託/問題演習			

第7回目	不動産（3）債券投資・株式投資/問題演習	
第8回目	不動産（4）：外貨建商品・関連法規/問題演習	
第9回目	相続・事業承継（1）：所得税の仕組み、損益通算、所得控除、税額控除/問題演習	
第10回目	相続・事業承継（2）：個人税・法人税・消費税・小テスト実施	
第11回目	相続・事業承継（3）：不動産の見方・取引・法令/問題演習	
第12回目	相続・事業承継（4）：不動産の税金・有効活用/問題演習	
第13回目	6科目まとめ①：問題演習	
第14回目	6科目まとめ②：問題演習	
第15回目	6科目のまとめ③：問題演習	
事前・事後学習	事前に学習範囲を提示しますので、テキストを読んでおくこと。授業の最初に前回の学習箇所を復習します。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	※0%	（注）著しく授業参加態度が不適切な場合は、10点の範囲内で成績を減点する場合があります。減点事項としては、①遅刻、早退 ②授業中の居眠り、私語 ③その他受講態度として不適切とみなされるもの。である。
レポート		
調査報告書		
小テスト	50%	10回目をめどに、小テストを実施する。正答率に50%のウエイトを乗じ成績に反映する。
試験	50%	16回目の終講試験の正答率に50%のウエイトを乗じ、成績に反映する。
発表内容（態度含む）	※0%	授業中にテキストの内容、授業の内容について質問をする場合がある。
その他		
教科書と参考図書		
① FP技能士2級・AFP最速合格ブック ②FP技能士2級・AFP重要過去問スピード攻略 ファイナンシャル・プランニングⅢで使用したテキストと同じものを使います。		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（証券会社勤務 22年、独立系ファイナンシャルプランナー 10年） テキスト・問題集・電卓（携帯やスマホに内蔵されているものは不可）・ノートを持参すること。重要な論点は板書するので、ノートに記入すること。		